

喚田孝博副議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に進行をいたします。新実祥悟議員。

新実祥悟議員 議長の許可をいただきましたので、通告の順に従いまして一般質問をさせていただきます。

まず大きい 1 番としまして、国道 247 号中央バイパス鹿島町地内の渋滞緩和についてお尋ねいたします。

既にこの件につきましては、多くの議員さんの質問によるご答弁によっておむね了解するところでありまして、重複する部分につきましては割愛させていただきます。

まず、(1)ア、国道 247 号中央バイパスの進捗状況、これにつきましてはもう既にご答弁いただいているところで、進捗状況については 90%の用地買収率というようなことで伺っておりますので、割愛させていただきます。

イとしまして、完成目標時期と達成見込みについてですが、後の質問にもちよっと関連しますので、この部分だけお尋ねいたします。

喚田孝博副議長 建設部長。

服部信夫建設部長 完成目標ということですので、当路線につきましては、県下でも優先度の高い路線となっております。昨年ですが、愛知県からは平成 23 年度を開通目標としていると聞いております。愛知県では予算の確保と積極的に工事を実施していただくようお願いしております。

以上です。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 ありがとうございます。

それでは、(2)鹿島町地内の渋滞緩和についてお尋ねします。

まず、アの地元要望についてですが、こちらのほうももう既に質問があったところですが、地元のほうから要望が出ていると承知しているのですが、当局の皆さんのほうでもこの要望についてご承知しているかどうか、お尋ねします。

喚田孝博副議長 産業環境部長。

山口一夫産業環境部長 地元要望でございますが、競艇場の周辺対策の中で鹿島大橋から拾石前浜間の道路の拡幅の要望と、またこれとは別に鶴ヶ浜団地内の通過車両についての要望が出ていることを承知しております。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 今回、このような地元からの要望が出てきたというのは、実際にカインズモールのところから帰られるお客様が 247 号を左折しまして、県営鶴ヶ浜団地を通過する抜け道として利用しているのではないかと、そういう中で出てきた要望だというように私も認識しているところです。

そこで、現在のところはカインズモールさんだけですが、既に工事が始まっ

ているところですが、新たに大型店が出店されることになるということです。それに伴い当然交通量もふえるのではないかと、あるいはまた先ほどのご答弁にもあったように交通事故も懸念されるところですが、今後はどのように出店者に対して指導していくのか、その辺をお尋ねします。

喚田孝博副議長 産業環境部長。

山口一夫産業環境部長 先ほど、カインズの出店のときのご質問がございましたが、今度のショッピングモールの出店につきましても大型小売店舗の届け出がなされております。今回、新しくワイズ都市開発株式会社が建物設置者となりましたが、当初の内容をすべて引き継ぐことになっております。事業主とともに、広域の誘導計画及び適切な誘導員の配置など交通渋滞対策に必要な措置を実施することになっておりまして、眺海橋南交差点、蟹洗交差点、天神橋北交差点による誘導計画と並びに帰路は左折のみとしまして、南西方向へは競艇場西、眺海橋南を左折して帰っていただく計画になっております。

鶴ヶ浜団地内の生活道路への進入防止の対策といたしましては、開業時に進入しないようにプラカードを掲げた誘導員を配置するとともに、広域誘導看板の設置及び出入口に入退場経路の看板を設置し、来客者に周知することになっております。

また、オープン時や土日・祝日の出入口における交通誘導員の体制につきましても計画をされております。

先日もこの確認をとっており、ワイズ都市開発株式会社におきましても、地域住民の皆様にご迷惑をかけないよう配慮していくという回答を得ております。もし、届け出時の内容が守れない場合は、市としても指導していくことを考えておりますので、よろしく願いいたします。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 よろしく申し上げます。

次にイとしまして、大型商業施設の出店と交通量予測についてお尋ねします。先ほど伴議員さんのご質問、ご答弁の中に、ワイズさんの分ではなくて、それ以前の部分についてのお話はちょっと伺ったのですが、今回のワイズさんの部分ではどんな予測になっているか、この辺をちょっとお尋ねいたします。

喚田孝博副議長 産業環境部長。

山口一夫産業環境部長 ショッピングモールの進出におきましては、眺海橋南、競艇場西、天神橋北交差点において、平成 19 年 3 月中の 2 日間、交通量の調査を行うとともに、同交差点における開店後の交通量の試算をしております。双方を比較する上でのピーク時での比較しか出ていませんが、その数値を申し上げますと、眺海橋南においては、平日ピーク時は午後 5 時台で 2,365 台、開店後は 2,717 台で 1.15 倍、休日のピーク時は午後 4 時台で 2,080 台、開店後は

2,615 台で 1.26 倍であります。競艇場西におきましては、平日ピーク時は午後 5 時台で 1,884 台、開店後は 2,586 台、1.37 倍でございます。休日のピーク時は午後 3 時台で 1,859 台、開店後は 2,926 台、1.57 倍であります。天神橋北におきましては、平日ピーク時は午後 5 時台で 1,906 台、開店後は 2,398 台、1.26 倍、休日のピーク時は午後 3 時台で 1,726 台、開店後は 2,473 台、1.43 倍となっております。一番交通量がふえるのは、競艇場西で休日のピーク時に 1.57 倍になると予測されております。

また、渋滞を引き起こすかどうかを調べる飽和度につきましては、天神橋北交差点において開店後 0.7 となるのが最大値となっております。道路混雑度におきましても、眺海橋南交差点において開店後 1.16 が最大値であり、昼間の 12 時間のうち道路が混雑する可能性がある時間帯は 1、2 時間であるとされております。

予測数値からいきますと、このような判断となりますが、現在のカインズ前は時間帯によっては混雑しておりますので、いずれも予測数値は上がっていることから、開店後は時間によっては今以上の渋滞が発生するものと思っております。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 今、ご答弁いただきました予測をしていただいた定点については、やはり近くの交差点ということで、カインズモールさんですとか、今度新しく出店されるところの目の前の道路の数値ではないということが確かだと思っております。ですから、今、一番問題になっているのは目の前の道路の部分ということで、あそこが本当にこれからもっと渋滞するのではないかと、そんな懸念をしているわけで今の質問をさせていただいたわけですが、当局としてもそれは承知しているということで解釈させていただきます。

次に、あそこの道路を少しでも渋滞緩和するにはどうするのかという話の中で、ウとして信号設置と 4 車線化についてお尋ねしようと思ったのですが、信号設置につきましては先ほどご答弁がありましたのであまり繰り返すことはしませんけれど、信号設置の可能性について、一つだけ、どういうふうにすれば、可能性の条件について、そこだけちょっとお尋ねいたします。

喚田孝博副議長 都市開発部長。

木俣文博都市開発部長 信号設置の可能性ということでご質問でございます。先ほどもお話をさせていただきましたけれど、今、考えられる対策、信号設置の可能性ということで、公道に乗り入れがございまして、今の乗り入れのほうを公道にするということになると交差点になり得る。交差点になり得るということになると、信号設置が可能であるというようなことだと思われまして。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 今、カインズさんの中に入っている乗り入れの道路というんですか、乗り入れの通路というんですか、あれが公道にならなければならないと。それから、もちろんもう 1 か所、新しい蒲郡ショッピングモールというんですか、そちらのほうに入っていく道路も公道になれば信号設置の可能性があるという解釈で受けとめさせていただきます。

信号設置についてはそうですが、渋滞緩和のもう一つ大事な点というのは、あそこの道路は今、片側 1 車線の 2 車線ですが、4 車線化するということが一番必要になってくるのではないかと思うのです。この件に関しましても、塩津地区の要望として「早期の 4 車線化をお願いします」というものが継続して出されているところですが、先ほど 247 号が完成した後でなければ 4 車線化されないというようなご答弁もあったのですが、完成が平成 23 年度ということになりますと、蒲郡ショッピングモールというところができただけ 1 年か、もっとその後になるんですか、結局、その間非常に渋滞がそのままにした状態で続いていってしまうということが現実にあると思うのです。ですから、再度確認させていただくのですが、渋滞緩和のために 247 号が完成する前に 4 車線化というのはできないのかどうなのか、その辺はどのような感触をいらっしゃいますか。

喚田孝博副議長 建設部長。

服部信夫建設部長 この 4 車線化の問題、非常に大事なことだということで、市のほうもとらえております。地元の地区からも 4 車線化の要望はいただいております。今後もそうですが、愛知県に対しまして要望していく必要があるかと思っております。要望自体も継続しておりますが、愛知県は今のところ中央バイパスに着手しておりまして、これに投資しております。その投資を中断してでもという話にはなりませんので、できたら並行してという話もしていきたいと思っておりますが、愛知県そのものは中央バイパスを完了して、それを見て、今度は鹿島バイパスの 4 車線化に行きたいというように言っております。

以上です。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 できれば並行してやっていただければありがたいのですが、県の方針ということでなかなか難しい部分もあるかと思いますが、引き続き要望していただきますようお願い申し上げます。ありがとうございます。

では、大きい 1 番は以上とさせていただきます、次に 2 番、「乗って残そう、名鉄西尾・蒲郡線」についてお尋ねいたします。こちらのほうも先ほどの伴議員のご質問、ご答弁によって一部割愛させていただきます。よろしく申し上げます。

まず、(1)の利用促進策についてのうちアとして利用促進策の内容についてですが、こちらをまずお尋ねいたします。

喚田孝博副議長 企画部長。

小林憲三企画部長 名鉄の存続問題をより多くの市民の皆様知ってもらい、一緒になって考えていただき、率先して市民の皆さんにご利用いただく、それが大切かというように思っております。この核となる「市民丸ごと赤い電車応援団」が昨年9月に結成することができました。利用促進策につきましては、この応援団の皆さんにご検討をいただいているところであります。

現在実施しているほんの一例ではありますが、数点ご紹介させていただきたいと思えます。

利用促進アイデア箱を設置いたしまして、応援団以外の方からもいろいろなアイデアをいただくという工夫をしております。それから、応援メッセージ号の製作、展示ということで、いろいろな方にメッセージを書いていただいて、それを西尾から蒲郡まで、いろいろなところへそれを展示してアピールするというようなこともやっております。それから、各種イベントでのPR活動、競艇場でもやったのですが、いろいろなイベント会場で利用促進、あるいは名鉄問題をPRしていくということを今やっております。それから、応援団のオリジナルバッジ、応援団の団旗を作成しまして、PR活動をやるときにはこんなものをグッズとしてやっていきたいというところであります。それから、応援団の拡大ということも大切ということで、新たな応援団の募集に入っております。あとはいろいろな活動をホームページで紹介して、いろいろな方に名鉄の問題をアピールしていきたい、それを利用促進にもつなげられればと思っております。

それから、今週の日曜日ですが、形原温泉のあじさいまつりと連携いたしまして、名鉄を利用していただいた方にはオリジナルピンバッジとあじさいまつりの入場券を先着100名様に差し上げるというようなことも考えております。それから、愛知県が推進している「エコモビリティライフ」という、いわゆる環境にやさしい交通行動の実践活動というのがあるわけですが、これについても応援団として考えていきたい、検討していきたいと。とりあえず市の職員が真っ先に実践しているわけですが、このように利用促進に向けていろいろなアイデアが出てきておまして、できるものから順次始めているというのが実態であります。

それから、新しい応援団の募集に際しましては、沿線市町の方からも入団のお問い合わせをいただいたりとか、あるいは近隣市町の方からもぜひ頑張ってくださいというようなお声をいただいているところであります。

今後も応援団の輪が市内外へ広がっていくように努めてまいりたいという考

えでありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 ホームページを見させていただきますと、鉄道ファンの方も結構一生懸命やってくれているのかなと思うのですが、イとして、鉄道ファンの方への働きかけについてお尋ねしたいのですが、ファンの方へ、例えば各駅の付近の公共施設にファンの方が自由に使えるようなブース、そういったものが設置することができないかと思うのですが、そういうことの可能性としてはいかがでしょうか。

喚田孝博副議長 企画部長。

小林憲三企画部長 確かに昨年、ＪＣの方が市民会館でフォーラムをやっていただきまして、そのときに鉄道ファンの方が結構全国から集まってまいりまして、結構動員力があるなとびっくりしたのですが、鉄ドルという方もイベントの中にご参加されたのですが、いろいろなアイデアで鉄道ファンが集まる可能性がありますよと、その辺ご支援いただいたわけですが、これにつきましても、赤い電車応援団の中でいろいろご検討いただいて、できるものはやっていきたいと思っております。

それから、公共施設等の鉄道ファンの利用、ちょっとこれは検討しないと何ともいえないところですので、一度検討させていただきたいと思ひます。

以上です。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 一度ご検討ください。

それでは、次に(2)の直近の幹事会、協議会についてお尋ねするところですが、こちらも伴議員さんへのご答弁がありましたので了解させていただきます。

(3)の具体的な支援策につきましても伴議員さんへのご答弁がありましたが、金額についてですが、これがなかなか決まらないというか、お話しだけないような状況ですけれども、そのように聞くと、関係市町、あるいは国と県の歩調がどこまで合っているのかなという疑問が少し出てきてしまうのです。みんなばっちりとコミュニケーションがとれてやっておられるなら、こういう話もずっと出てくるのかなと思うのですが、この辺の歩調としては実際合っているかどうか、ここだけちょっと確認させてください。

喚田孝博副議長 企画部長。

小林憲三企画部長 国、県、市、名鉄、関係者の歩調ということですが、基本的には合っているかと思っております。伴議員さんのところでも3月の協議会のことをご報告させていただいたのですが、そのときには必要不可欠な路線である、それから、道路と同様な大切な社会基盤である、そのために支援をしていくんだと、これを共通認識で持っております。あと、額の出し方について

は先例がいろいろありまして、出し方によって数億円違ってしまうという部分がありまして、それを今、1個1個精査している段階ということで、決して歩調がとれていないということではなくて、いろいろな考え方があるから、それを整理しているということでご理解いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 歩調はとれているということで、これは安心させていただきま。いろいろなニュースを見ますと、西尾市さんの状況がどうなのかというものも出ておりますので、ちょっと心配してお尋ねしました。

次に移らせていただきます。名古屋鉄道さんだけのお話ではないのですけれど、(4)として総合公共交通体系についてですが、まず、本市としては公共交通全般の状況はどのようなものかということ、どのように把握されているか、まずこれをお尋ねいたします。

喚田孝博副議長 総務部長。

山口修総務部長 蒲郡市の公共交通ということでありまして、JRと名鉄の電車、それと名鉄バス東部による路線バス、それとタクシーというものを公共交通というものとしてとらえております。

JRにつきましても、この区間が廃止されるというような、そういう心配はしていないのですけれど、名鉄電車、それから、名鉄バスの路線バスのほうもかなり厳しい状況であるというようなことを認識しております。タクシーにつきましても大分厳しいというようなことではあるのですけれども、この5月から高齢者割引タクシーの制度というものを市が始めたということもあって、まだこれは結果としては集計できておりませんが、今後また高齢者の方、あるいはタクシー業界の方からも好評を得ておりますので、少し、半年ぐらいの様子を見てみたい、このように思っております。

以上です。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 公共交通が低迷しているのは明らかなことだと思います。それがためにバスのほうでも3,500万円ですか、補助金を入れている事実もあります。これから名鉄電車のほうにも幾らかの金額は出していこうというような形になっていくのかと思っているのですが、そうしてみると、名鉄さんの電車もバスもタクシーも一体的に公共交通ということで、市が経営するという意味ではなく、市として音頭をとって体系整備をしていくということも必要になるのではないかと思っているのですが、その点についてはどのようにお考えになりますか。

喚田孝博副議長 総務部長。

山口修総務部長 音頭をとるということですが、例えば名鉄の電車と路線バス、特に西浦半島から蒲郡にかけては地形的な問題もありますので、どうしても電車とバスが競合してしまうようなことがあります。蒲郡市内を見ても、JR路線を外して通ればいいのかというと、またそれもかえって乗れる方が少ないというような問題もありますので、そこでまた赤字額がふえてしまって経営的に成り立たないというようなこともあるものですから、それは今は市民病院には寄ってくださいというようなことでやっています。なかなか営業でもありますので、それを市のほうがどこまで話をかけて乗っていただけるかというのはなかなか難しい問題があるかとは思っております。

以上です。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 民間会社の営業ということでなかなか話しづらいというのは理解できますが、現実としてバスもタクシーのほうもいってみれば補助金を出しているのと同じようなことですので、電車のほうもということになりますと、三つの交通形態にすべて市がお金を出している。これはただ出し切りでいいんだということには、やはりならないと思うのです。お金を出している以上、市としての考えですとか要望ですとか、そういったものもちゃんと提示して、そして事業者にしっかりと考えていただく。企業努力をしていただくということも必要になるのではないかと考えていますので、また今後、機会がありましたら、協議会なり何なり開いていただいて、考えてご検討いただければと思います。ありがとうございます。

それでは、次に移らせていただきます。大きい3番のラグーナ蒲郡の現状と今後についてお尋ねいたします。

(1)として、前期の決算状況についてですが、ラグーナに限らず、娯楽施設は景気に大きく左右されるものですが、平成21年度の決算の状況はどのようであったかお尋ねいたします。

喚田孝博副議長 企画部長。

小林憲三企画部長 前期、平成21年度の決算状況ということでございますので、一昨年9月からの世界同時不況の影響等によりまして個人消費が低迷し続けたこと、加えまして高速道路の土曜、休日、祭日、一律制限の実施が悪いほうに影響したことによった大変厳しい状況であったというふうに聞いております。これはラグーナだけでなく全国的な傾向というふうにもお聞きしております。

こうした厳しい状況を打開するため、配置基準の見直しによる省人化、警備・清掃などの実施基準の見直しや一層の省エネ活動など、全社一丸となって原価低減活動を強力に推進したと聞いております。その結果、運営事業の営業損失



は平成 20 年度よりも改善できそうな状況にあるとお聞きしております。

なお、前期（平成 21 年度）の決算状況の具体的数字につきましては、今後、株主総会が開催された後、しかるべき時期にお示しをしたいというように思っておりますので、よろしく願いいたします。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 まだ株主総会が終わっていないということですね。わかりました。

それでは、(2)として来期の見込みについてお尋ねしますが、来期はどんな感じになるかお尋ねします。

喚田孝博副議長 企画部長。

小林憲三企画部長 海洋開発からお聞きしている話ですが、ことしの 3 月 20 日から 6 月 27 日までの間にラグナシアでアニメのワンピースというイベントが開催されております。このイベントは、雑誌、テレビ、新聞等も加わった実行委員会方式でやられておまして、通常の海洋開発での宣伝に加えて雑誌、テレビ、新聞等から独自の宣伝活動も行われて、加えて天候にも恵まれたこともありまして、期間を通して絶好調でありまして、特にゴールデンウィークはこの近年にない大変なにぎわいであったとお聞きしております。また、現在も雑誌、テレビ、新聞等の共同での効果的な宣伝によりまして、全国からのワンピースファンが来場し、前売券も好調な販売を継続していると。それから、来場者及び売り上げは当初計画よりも大きく上回っているとお聞きしております。

このように、今期は出足好調であります。前期同様、原価低減活動をさらに強力に推進していくというように聞いております。

また、ラグーナ蒲郡の客層は今までは東海地区エリアがほとんどということでありましたが、今回好調のワンピース企画によって客層が全国的に広がったというように聞いております。今期は愛知県海浜緑地におきまして、6 月 12 日、あすですが、「チューブ」のコンサート、10 月には「ホームメイド家族」のコンサートが計画されているようです。いずれも 1 万人規模のコンサートを計画されておまして、全国各地からの来客が期待されるというところでありませう。ちなみにあしたの「チューブ」につきましては、1 万 5,000 人ほどになるかもしれないという話を伺っています。今後もこうしたコンサートが開かれる可能性が高まっていると。いろいろなところから声がかかり始めているというようにお聞きしておまして、そういった面では期待しているところでありませう。

今回のワンピース企画、そして、海浜緑地での大規模コンサートなどが今後のラグーナ蒲郡の運営事業の展開にも好影響を与えてくれることが考えられますので、平成 22 年度の決算見込みにつきましては、一層の改善が図られること

を期待しているところであります。

以上です。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 すごいですね。チューブで1万 5,000 人ですか。ワンピースもすごくたくさん入っているということで、こういった企画がどんどんされていけば、蒲郡市自体ももっとにぎやかになっていくのではないかとということで期待されると思いますが、これは海洋開発の努力ということで考えさせていただきます。

(3)として、蒲郡市の取り組みについてということでお尋ねするのですが、それでは市としてはどのように利用促進についてはお考えになっているか、この点についてお尋ねいたします。

喚田孝博副議長 企画部長。

小林憲三企画部長 ラグーナ蒲郡は蒲郡市にとって財産であるというように思っております。いろいろな形で応援していくべきだと思っております。例えば毎年職員の福利厚生を目的とした互助会事業を通じまして、ラグナシア及びプールの利用を中心とした利用促進を図っております。ちなみに昨年度は延べ 500 人、金額にして約 100 万円の利用実績を上げております。今年度におきましては、これと合わせまして絶好調のワンピースイベントの法人向け団体割引制度というのがありまして、それを全職員に呼びかけさせていただいて、毎年の互助会事業とは別の形で事業促進を図っているところであります。

今後につきましても、互助会事業あるいはまた別に特別計画があれば、団体割引等のあっせんを職員向けにしてまいりたいというように考えております。

以上であります。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 そういった支援の中で金銭的支援について次にお尋ねしたいのですが、最近では景気が持ち直しているというようには聞いているのですが、もし、ラグーナの財政状況というのが景気が持ち直しているとはいいいながら、ラグーナ自体は好転しないというような場合には、名目のいかにかわらず、さらなる金銭的な負担を求められる可能性もあると思っております。その場合、当局としてはどのように対応するか、どのようにお考えになるかお尋ねいたします。

喚田孝博副議長 企画部長。

小林憲三企画部長 蒲郡市海洋開発につきましては、一層の企業努力を求めていく考えでありまして、金銭的支援は考えておりません。しかし、ラグーナ蒲郡は年間 300 万人ほどが訪れる東海地区を代表する観光施設でありまして、また雇用も 1,000 人ほど、旅館や飲食店等地域経済の波及効果も極めて大きい、

地域経済活性化のリード役でありまして、蒲郡市にとっては貴重な財産だと思っております。

今後こうした認識のもとで金銭的支援とは別の形で応援をしてみたいというように考えております。蒲郡市観光協会や飲食店協会、あるいは農協、漁協、そしてラグーナ蒲郡、お互いが密に連携することによってより高い相乗効果が生まれるのではないかと考えております。今までそのような取り組みをしましたが、今後一層その連携強化を図れるよう市としても応援をしてみたいという考えでおります。

また、債務負担行為を認めていただいた海洋開発の増資が平成 23 年度以降分が 5 年分の 5 億円が債務として残っております。現在は競艇の売上げが好調ですが、今後は不透明なところもあります。競艇の売上げが好調のうちに債務の前倒しによる後年度負担の軽減を検討する時期にあらうかと考えております。

以上です。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 特別に新たに金銭的負担は考えていかないと。ただ、債務負担行為として残っている残金については前倒しという可能性があると、そういうふうな解釈させていただきます。

では、金銭的な支援はもちろんしないという話の中で、では政策的な支援というのはこれからちゃんとやっていくべきなのかと思うのですが、これを政策的支援の事例を今挙げていただいたのですが、もっと踏み込んで、市の事業自体を見直す、そういった政策的な支援もあるのではないかと考えているのです。

例えばラグーナにとっては、プール事業というのは大きな収益源だと認識しているのですが、蒲郡市自体も市民プールというのを持っていますね。市民プールがもしかしたらラグーナのプール事業を圧迫しているのではないかとというような印象も実は私は持っているのです。つまり、民業を圧迫しているのではないかとということです。民業ということは、ラグーナのプールだけでなく、ほかにスイミングスクールとかやっているところもありますので、そういったところも含めてのことですが、この点に関しては、市民プールが民業を圧迫しているのではないかとこの点に関して、市としてどのようにお考えになりますか。

喚田孝博副議長 企画部長。

小林憲三企画部長 市民プールが民業を圧迫しているのかということですが、市民プールは市民の体力向上及びスポーツ、レクリエーションの振興を図るために設置された施設であります。毎年、市内の小・中学生の利用を中心ににぎわっているところだと思っております。

一方、ラグナシアは水着のまま買い物、アトラクションを体験できるので全国的にも珍しい施設で、先ほど申し上げたように年間 300 万人ほどが訪れる東海地区を代表する観光施設としての特色を持った施設でありまして、市民プール、ラグナシア、それぞれ目的も違うし、特色も違うし、うまくすみ分けができていくのではないかと考えております。決して市民プールがラグーナのプールを圧迫しているというようには思っておりません。

以上です。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 非常に行政的なご答弁として受けとめさせていただくのですが、市民プールは民業圧迫というだけでなくラグーナ蒲郡には本市も出資しているわけです。プール事業でいけば出資しているということで、市の事業の一部だというような考え方もできるのですけれど、プール事業でいうと、縦割り行政の中で事業が重複しているというように考えてもいいのではないかと考えています。だれもがそうですが、自分が決定権者のときに事業を廃止するなんていうことはしたくないというところが、それは理解するところですが、実際、蒲郡市の身の丈に合った行政というのをしていかなければいけないんだというように思っているのですが、事業のどこをやって、どこをやめてなんていうことはなかなか難しい決断だとは思いますが、ちゃんと選択をして決断をすべき、つまり市民プールはやめるということを方向性として出していく必要性もあるのではないかと考えているのですが、こういったことは全然考えられないということなのでしょうか。

喚田孝博副議長 企画部長。

小林憲三企画部長 新実議員おっしゃる身の丈に合った行政、それはそのとおりだと思います。

市民プールは市民プールの利用目的、ねらいがあります。現在の市民プールは大分古くなってきております。遠からず建てかえということを検討せざる得ない時期が来るかと思っております。そのときの財政状況がどうだということがあるかと思っております。今のお答えはそのぐらいしかできないですが、よろしくお願いたします。

喚田孝博副議長 新実祥悟議員。

新実祥悟議員 すべて、市民プールに限らずですけど、しっかりと検討していただいて、選択と決断ということで考えていただければと思います。ありがとうございます。

以上で一般質問を終わります。